

## 尾張西支部

尾張西支部（富田昭夫支部長）の防災訓練が2月15日（木）午後2時より海部南部消防組合本庁（海部郡飛島村大宝5-182）において、会員21名が参加して行われました。

訓練の開催にあたり富田支部長より挨拶があり、海部南部消防組合消防署消防第3課長消防司令 桧山正志氏より防災訓練の重要性を交えての挨拶がありました。

講習は二班に別れ、「消防訓練」、「救急訓練」が交互に行われました。

消防訓練では通報訓練が行われ、固定電話で火災通報する場合、その固定電話が登録されている所在地を管轄する指令センターに通報されます。携帯電話は地元のセンターではなく電波を受けたアンテナの管轄のセンターで受け、管轄指令センターに転送されるので正確に住所を伝える必要があります。通報の時には下記項目を必ず伝える。

- ①火事か救急かはっきり伝える。
- ②場所、地番や世帯主等を伝える。交通事故の場合は現場付近の建物、目標物を伝える。
- ③状況を詳しく伝える。
- ④通報者の氏名、電話番号を伝える。

シミュレーションとして参加者の一人が通報者になり、実際に携帯電話で119番に通報して指令員とのやり取りを行いました。参加者からレスキュー車などは要請できますかとの質問に、消防署の方でどの車両を出動させるかを判断しますので状況を詳しく伝えて下さいとのことでした。

次に、屋外に出て別棟で煙体験を行いました。煙が充満して周りが見えない部屋に一人ずつ入り、背を低くしてかがみ、口と鼻をハンカチで押さえた状態で、右手を壁に着けて、壁伝いに部屋を一周しました。体験者からは訓練用の煙で悪臭はなかったが、本当の火事であれば、有毒ガス等でせき



挨拶をする海部南部消防組合消防署 桧山消防司令

## 防災訓練



講習を行った消防署員の方々と参加者の皆さん

込み、足元が見えなくなるという恐怖からパニックになるので、煙体験ができてよかったとの感想がありました。他には初期消火訓練用の消火器で、ピンを抜きホースを目標に向けて水を噴射する、消火体験を行いました。

救急訓練は会議室にてAEDによる心肺蘇生法の訓練が行われました。担当者によりダミー人形を使って、①反応（意識）を確認する ②助けを呼ぶ ③呼吸の確認 ④胸骨圧迫 ⑤人工呼吸（口対口人工呼吸） ⑥心肺蘇生法（胸骨圧迫と人工呼吸）の継続 ⑦AEDの到着と準備 ⑧心電図の解析 ⑨電気ショック ⑩心肺蘇生の再開の手順が説明されました。その後、全員が交代で心肺蘇生の訓練を行い、胸骨圧迫の速さ、AEDのパッドを貼る場所の注意などを受けながら①～⑩を練習しました。

参加者から呼吸が戻らない場合はいつまで胸骨圧迫をすればよいのかという質問があり、救急隊が来るまでに行い、そのためにも早く助けを呼び、胸骨圧迫を交代して続けられるようにするとのことでした。また、三角巾によるケガをした時の止血の仕方、骨折時に腕を吊る方法について等の説明がありました。救護者の搬送法では物干し竿2本と毛布でタンカを作る手順、なにもないときに2人で搬送する方法、救護者の足側に移動すると救護者が怖がらない等について担当者が実際に搬送を行い、参加者もタンカを作り救護者の搬送を体験して2時間ほどの防災訓練は終了しました。